

令和3年度第9回理事会議事概要

日 時 : 令和3年12月3日(金) 16:30～17:00

場 所 : 森林整備センターAB会議室(川崎市)

出席者	理事長	浅野 透
	理事(企画・総務・森林保険担当)	矢野 彰宏
	理事(研究担当)	坪山 良夫
	理事(育種事業・森林バイオ担当)	今泉 裕治
	理事(森林業務担当)	志知 雄一
	理事(法令遵守担当)	井田 裕之
	監事	鈴木 直子
	監事	高橋 正通
	総括審議役	寺川 仁
	総括審議役	中西 誠
	総括審議役	石原 聡
	審議役	森谷 克彦
	企画部長	小林 功
	総務部長	青柳 浩

1. 開会

(寺川総括審議役)

令和3年度第9回理事会を開催いたします。

本日は報告事項が4件です。それでは順次、説明をお願いいたします。

2. 議事

I-1 職員給与の改定及び令和3年12月の特別給支払いについて（非公表）

※青柳総務部長から本件の説明が行われた。

I-2 令和3年度補正予算案の概要について

(矢野理事)

11月26日に令和3年度補正予算案第1号が閣議決定されました。3ページと4ページが政府全体の概要になります。大きな金額が並んでおりますが、3ページⅠとⅡは新型コロナウイルス対策関係の予算になり、4ページにⅢ. 未来社会を切り拓く「新しい資本主義」の起動に関する予算、最後がⅣ. 防災・減災、国土強靱化の推進など安全・安心の確保に関する予算になります。当機構に関係している部分については黄色で塗っている部分、Ⅲ. 1. (2)の農林水産業の輸出力強化、成長力強化の部分とⅣ. 防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策の部分になります。5ページ以降は林野庁関係補正予算の概要になります。予算総額は1,242億円となっており、公共予算が1,019億円、非公共予算が223億円になります。この中で、森林整備事業の461億円の中に水源林造成事業が含まれており、木材産業国際競争力・製品供給力強化緊急対策の非公共220億円の中に森林総合研究所及び林木育種センターの施設整備の予算が含まれております。6ページから重点事項についての説明になります。1 (2) ①木材産業国際競争力・製品供給力強化緊急対策の4行目にエリートツリー等の苗木の生産施設整備と書かれており、この部分について林木育種センターと森林総合研究所が行うことになります。7ページの2 (1) ②森林整備による対策、ここに水源林造成事業が入っております。8ページにはポンチ絵がついておりますが、左下<事業の内容>の1. ②原木の低コスト安定供給対策等の中に、エリートツリー等の苗木の生産施設整備等と書かれております。また、<事業の流れ>の最後に森林研究・整備機構が事業の一部を実施していくことについて書かれております。林木育種センター、森林総合研究所の関係予算は9ページになります。全額施設整備費補助金になり、予算額は約2億円です。内容は主に3つ、挿し木高速増殖用養苗温室整備及び増殖拠点整備が林木育種センター、人工気象制御温室整備が森林総合研究所になります。10ページは防災・減災対策となっており、186億円のうち48億円が水造林造成事業の補正予算になります。

(今泉理事)

施設関係は老朽化が著しいものも多く、そういったものをどう計画的に維持修繕しながら使っていくか、また、予算が貰える時には適切に要求していく必要があると感じております。

(矢野理事)

施設整備費については、今中長期目標期間は前期より1.5倍ベースの計画になっておりますので、それに対応した金額がまず令和4年度予算で認められることを期待しています。

(今泉理事)

4 ページⅢ. 1. (1) 科学技術立国の実現の中の大学ファンド、ムーンショット型研究開発等に関連して、官邸でとりまとめられた緊急提言ではバイオテクノロジーにも言及があり、間接的に大学と共同研究することで当機構が関わってくる部分もあるかもしれないので、その点についてウオッチしていきたいと思っています。

(志知理事)

水造林造成事業については、金額的には近年の中ほど程度で、予算成立後、適切に執行していきたいと思っております。

I-3. 令和3年度特定母樹等普及促進会議の開催状況について

(今泉理事)

今回はウェブ及び書面開催となっております。参加者については森林総合研究所、森林整備センター、整備局、水源林整備事務所、森林保険センターからも出席をいただいて開催しております。

エリートツリー、特定母樹の関係ですが、制度的には平成25年度に法改正で間伐等特措法の改正でできたばかりですが、そうは言いつつも昨今、みどりの食料システム戦略、新たな森林・林業基本計画でもこれからの新しい林業の主役として、非常に重い位置付けが与えられていることもあります。主な意見・要望等を見ていただければわかると思いますが、各県とも非常に関心をもっていただいているところです。

特定母樹もまだ生まれ出たばかりなので、実際に山に植えてどのくらい育つのか、という点についてもデータを取っていくことが必要であり、そもそもどういう施業体系でどうやっていくのか、についても森林総合研究所と連携して研究しています。その辺をきちんと世に出していくためには引き続き、やるべきことが多いと感じています。

国有林、森林整備センターともフィールドで実証を行っており、いずれは森林保険センターの関係にも何か反映されてくると考えられますので、特定母樹については機構全体で関心をもって連携して取り組んでいければと思っております。

(鈴木監事)

今年度から整備センターのフィールドを使って展示林の事業が始まっていると思うのですが、中長期計画内にどれくらいの規模でやるという計画はあるのでしょうか。

(森谷審議役)

数値までは定めていなかったと記憶していますが、(育種世代としては) 精英樹から第二世代に入っており、更に第3世代の造成も一部で始まっていますので、どういう展

示方法にするかを考えています。展示タイプが違えば地域内で2つめ、3つめを考えていくべきだと思っていますが、今のところはまずは見てもらう、そして、知見を持ち帰ってもらえるように場の良いところで設定をしましょう、いうことを考えておりますので、各場で最低1か所の造成を進めているところです。

(鈴木監事)

ありがとうございます。

(浅野理事長)

先日、九州出張の際に展示林を見せて頂きました。各県を廻りながら毎年1つずつ作っていると聞きました。車で行きやすく見やすいところに展示しており、非常に有効だと思いました。

(森谷審議役)

九州が最も進んでいます。展示林は、再造林期が早い九州から進めており、西から東に攻めていくような形になっていくと思います。

I－4. 令和3年度第2回森林保険センター統合リスク管理委員会審議概要について (非公表)

※石原総括審議役から本件の説明が行われた。

II. その他

(鈴木監事)

来年のWOODコレクション（モクコレ）において、森林研究・整備機構としてブース出展すると伺ったのですが、内容については決まっているのでしょうか。

(矢野理事)

具体的には聞いていないので、担当者レベルで検討している段階だと思います。

(鈴木監事)

3部門間の連携と、森林研究・整備機構の強みが打ち出されていけば良いのかなと感じております。よろしくお願いします。

(寺川総括審議役)

ほかに質問がないようでしたら、これで令和3年度第9回理事会を終了いたします。次回1月7日（金）、開催方法等については後日連絡させていただきます。

3. 閉会